

第2章 活かしたい堺の景観と 景観形成の理念・基本方針

堺市らしい景観とは

本市固有の都市イメージを表す、堺市らしい景観とはどのようなものでしょうか。

堺は古代にさかのぼる歴史をもち、それぞれの時代に先進的な考え方を取り入れながら、長い時間をかけて形成されてきた都市です。本市の景観は、こうした歴史の積み重ねの結果として形づくられたものであり、この重層性ある景観が堺市らしい景観を形成しています。

本市の景観の魅力や、その背景にある意味を今一度認識し、未来に引き継ぐまちづくりの源泉とするため、以下では本市の景観がどのような構造をもっており、本市を特徴づける景観資源にはどのようなものがあるのかを明らかにします。

スケールから景観をとらえる

都市景観を考えるにあたっては、敷地レベルや個々の構成要素だけでなく、通りのまちなみなど、周辺の景観、敷地が位置する地域の景観、さらには都市全体の景観との関係性やその見え方、とらえ方といった景観の構造について考える必要があります。

景観のとらえ方は、目の前の風景を空間として認識するときのまとまりの大きさ(空間スケール)により、地域や都市全体を一つのまとまりとしてとらえた大景観、一定の特徴を有した通りのまちなみや境界などのまとまりをとらえた中景観、路地、庭園、個々の建物や樹木などのスポットをとらえた小景観に分類することができます。大景観では、山地、台地、丘陵、平地、河川などの地勢を、中景観では、地域の歴史、文化がつくる雰囲気や人々の活動などを、小景観では、建物の詳細なデザインなどまちの営みを景観の特徴として感じとることができます。

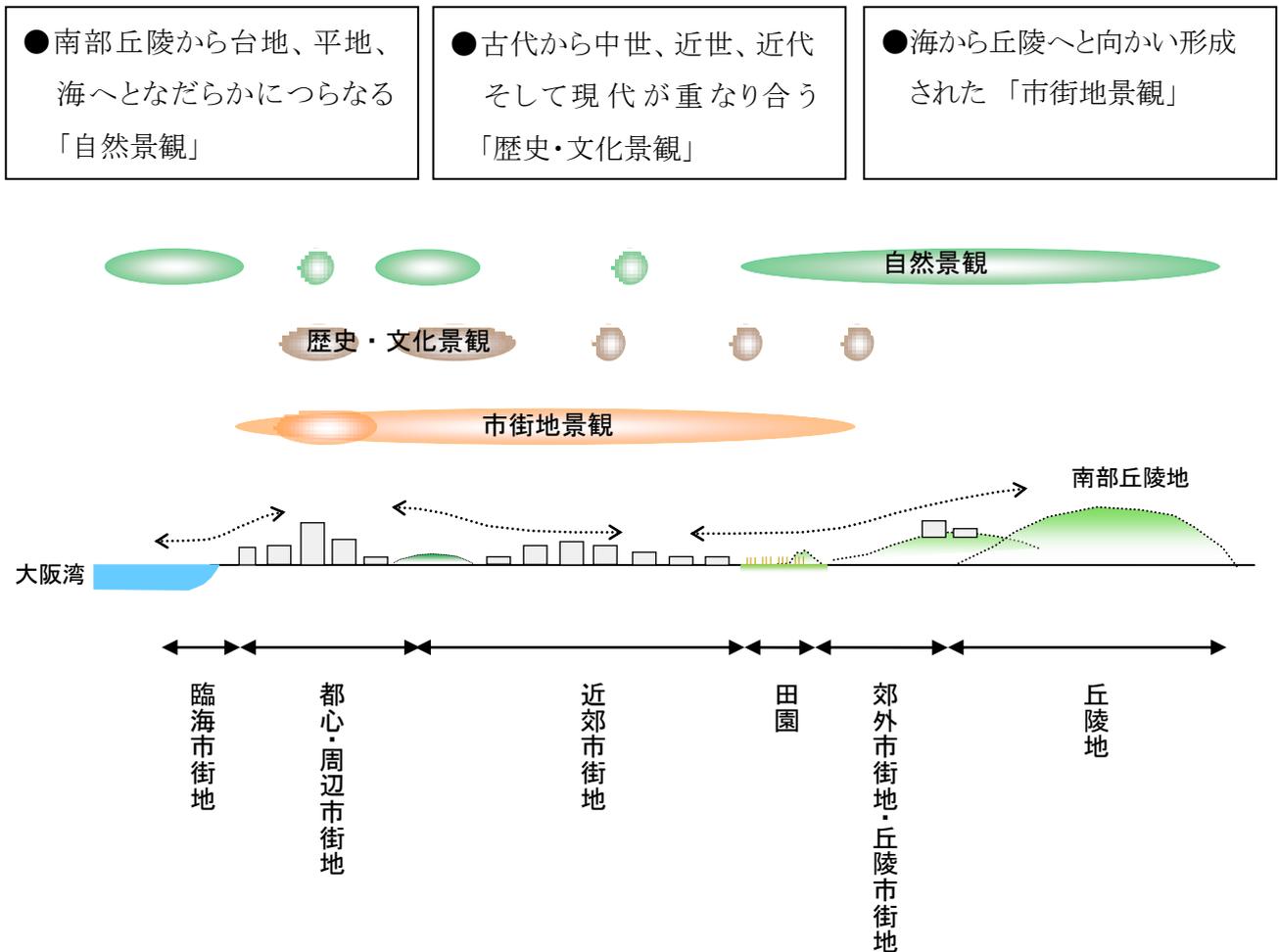
これらは相互に関連し合い、総体として景観を構成するものであることから、建築物などの計画にあたっては、それぞれのスケールにおける景観との関係性についても考慮する必要があり、こうした関係性を意識することが、地域の特性や周辺と調和のとれた良好な景観形成につながります。

空間スケール による景観の とらえ方	大 景 観	中 景 観	小 景 観
	地域や都市全体を一つのまとまりとしてとらえた景観	一定の特徴を有した通りのまちなみや境界などのまとまりをとらえた景観	路地、庭園、個々の建物や樹木などのスポットをとらえた景観
イメージ			
			

堺市の景観構造とそのなり立ち

本市の地形は、南部の丘陵地から海へと向かって緩やかに変化し、この地形の変化に沿って、水系、地質といった地勢や植生などにより自然景観が形づくられています。古代より海に開かれた堺はその立地条件を活かして発展を続け、時代の経過とともに丘陵部へと都市化が進み、市街地が形成されていきました。こうして形成されてきた本市の現況を見ると、堺旧港や堺環濠都市地域を含む堺の都心・周辺市街地、三国ヶ丘台地の百舌鳥古墳群やその周辺の伝統ある市街地、街道集落や農地・ため池の周囲に拡大した近郊市街地、それに隣接する貴重な田園、泉北ニュータウンや大美野・さつき野などの郊外住宅地と農村集落が位置する郊外市街地・丘陵市街地、里山の豊かな自然が残る南部丘陵地、高度経済成長期を支え今また都市再生が進む臨海市街地、それぞれに堺らしい自然、歴史・文化、市街地景観が点在しています。

先にも述べたように、良好な景観形成のためには、その場所にあるものに着目するとともに、周辺の景観との関係性にも目を向けることが重要です。そこで、本章では各時代に輝いた活かしたい堺の景観や、堺らしい良好な景観形成を図るための理念・基本方針を示すとともに、景観のなり立ちを「自然」「歴史・文化」「市街地」の3つの視点から読み解き、それぞれの視点から見た景観特性を記載します。



2-1 活かしたい堺の景観

本市は、古代から各時代に輝いてきた景観資源を有するまちです。市民一人ひとりがこの堺固有の景観資源を共通の認識とし、共に守り、育み、またこれと調和した新たな景観を創っていくために、これまで守り育んできた大切な財産である、堺を特徴づける重層性ある景観を「活かしたい堺の景観」として示しています。

臨海部の景観

環境と共生する躍動感ある臨海景観



戦後、埋め立てが行われ、重工業地帯として発展しました。現在は、環境先進型の工場群が立地し、ダイナミックな景観が形成されています。

堺旧港の景観

歴史と自然のある開放的な水辺景観



堺旧港付近は親水空間として整備され、自然を感じられる憩いの空間が形成されています。

堺環濠都市の歴史的なまちなみ景観

町割や町家、伝統産業などの歴史資源を活かした景観



堺環濠都市地域では、近世の町割が今も残っています。また、北旅籠町などの北部には、戦災を免れた寺院や伝統的様式の町家が点在しています。

阪堺線と沿線の景観

歴史性やまちの顔としての風格とにぎわいある景観



阪堺線は明治44年の開業以降、身近な交通手段として親しまれており、沿線に点在する歴史的まちなみと相まって、昔懐かしい景観が形成されています。

浜寺の住宅地景観

歴史ある住宅と緑豊かでゆとりある住宅地景観



浜寺には、大正から昭和にかけてつくられた、浜寺公園駅駅舎をはじめ、和風、近代和風、洋館、数寄屋造りなどの貴重な歴史的建築物が共存しており、クロマツや板塀などによる良好な住宅地景観が形成されています。

【凡例】
 河川・ため池
 公園・緑地

市街地景観

風格とにぎわいある堺を代表する景観

堺東駅と堺駅を中心とする都心では高度利用が進み、商業・業務施設などを中心とした市街地景観が形成されています。



都心の市街地景観

歴史・文化景観

旧街道沿いの歴史的なまちなみ景観

街道の歴史性を活かした景観

堺には、5つの旧街道(竹内街道、西高野街道、熊野(小栗)街道、紀州街道、長尾街道)があります。街道の沿道には、今も古いまちなみが残っている地域があります。



自然、歴史・文化景観

百舌鳥古墳群と周辺の景観

古墳と一体となった緑豊かで歴史、文化環境にふさわしい景観

仁徳天皇陵古墳をはじめとする古代に築造された百舌鳥古墳群が、市街地の中で雄大な姿を見せています。百舌鳥三陵周辺は、古墳とともに、大仙公園や周辺の住宅地が一体となって、緑豊かな環境を形成しており、市民の憩いと安らぎある空間となっています。



歴史・文化景観

黒山の農村集落の景観

農地などの自然と一体となった農村集落の歴史景観

黒山では、戦後、道路整備など市街化が進みましたが、一団の農地や寺院とともに、今も明治期の農村集落の面影が残っています。



歴史・文化、市街地景観

大美野の住宅地景観

生垣など緑豊かでゆとりある住宅地景観

大美野は、昭和初期にヨーロッパの田園都市をなぞらえて開発され、生垣など緑豊かな良好な住宅地景観が形成されています。



自然景観

田園景観

丘陵地にかけて広がる素朴な田園景観

伝統的な集落地とともに、田畑、ため池、河川などからなる貴重な田園景観が広がっています。



自然景観

南部丘陵の自然景観

樹林地やため池など丘陵地の豊かな里山景観
 南部丘陵地には、シリブカガシの群生地のほか雑木林、ため池、河川などが育む豊かな自然環境が残っています。



市街地景観

泉北ニュータウンの景観

緑豊かな住宅地と駅前などの明るく活力ある景観

丘陵地に整備された泉北ニュータウンでは、住宅や商業・公共施設が計画的に配置され、緑豊かな住宅地景観が形成されています。



百舌鳥古墳群

旧街道

堺環濠都市・堺旧港

黒山

阪堺線

浜寺

大美野

都心

臨海部

泉北ニュータウン

古代

中世

近世

近代

現代